JSET NEWS LETTER
Japan Society for Educational Technology
日本教育工学会ニューズレター NO.251
ISSN 2435-239X

INDEX

学会が生み出す知の共有を支える編集委員会 02
日本教育工学会 2021 年秋季全国大会（第 39 回）の開催 03
日本教育工学会 2022 年春季全国大会のお知らせ（第三報） 04
研究会の開催「高等教育の質保証／一般」 10
研究会の開催報告「メディア・リテラシー／一般」 13
日本教育工学会論文誌特集号論文募集のお知らせ（最終報） 14
「特集：COVID-19 以降の高等教育の新展開：学習環境の改善・改革・革新」のご案内
ショートレター増刊号論文募集のお知らせ（第二報） 16
最近の論文投稿数と採択率 17
学会ホームページの更新情報について 18
一般社団法人日本教育工学会第 19 期第７回理事会報告 19
一般社団法人日本教育工学会第 19 期第８回理事会報告 20
2022 年会費納入のお願い 21
2022 年「研究会参加年間パス」会費（年額 2,000 円）納入について 21
新入会員 22
学会日誌 23

事務局●〒107-0052 東京都港区赤坂1-9-13 三会堂ビル8階
TEL 03-5549-2263
FAX 03-5575-5366
日本教育工学会ホームページ https://www.jset.gr.jp
e-mail:office@jset.gr.jp

学会が生み出す知の共有を支える編集委員会

日本教育工学会　副会長　山内祐平（東京大学）
2021 年 11 月

副会長挨拶シリーズも３回目になりました．今回は編集担当の山内が「学会が生み出す知の共有を支える編集委員会」と題して，担当しております編集委員会と ITEL 編集委員会の業務について説明させていただきます．

編集委員会は和文誌「日本教育工学会論文誌」の編集を担当する委員会です．編集長である私，副編集長である小柳和喜雄，編集幹事の緒方広明・向後千春・望月俊男を中心に，39 名の編集委員が投稿されてくる論文の審査にあたっています．

日本教育工学会論文誌は，国内の教育工学に関するトップジャーナルのひとつであり，現在 2,263 本の論文が掲載されています．前身である日本教育工学雑誌の発刊は 1976 年であり，現在にいたるまで 45 年間にわたって教育工学会が生み出した知を集積し共有する役割を果たし続けてきました．編集委員一同，この歴史のもつ重さを噛みしめながら教育工学発展につながる論文を一本でも多く掲載したいと考え，日々努力を積み重ねています．

学会の知の共有のためには，できるだけ多くの論文を学会誌に掲載することが必要です．一方で，学会誌には「信頼できる情報を集積する」というミッションがあり，研究の発展的連鎖に向けて信頼性の高い論文のみを掲載するという制約がかかります．この２つの条件をクリアし，さらに学会誌を発展させるために 2020 年 04 月に担当者・査読者ガイドラインを制定しました．ガイドラインに掲載された査読の基本方針の最初には「査読は，本学会の発展と会員の利益を念頭におき，本学会が取り扱う分野で学問・教育の発展のために何らかの意味で良い影響を及ぼす可能性のある論文を，学会誌に掲載するために行う．よって，研究の水準にとらわれすぎず，将来性のある論文を積極的に採択する．」という文言が入り，積極的に可能性がある論文を採択するスタンスを明示すると同時に，論文の信頼性・妥当性を担保するための観点や手続きについて共有するための文書になっています．

ITEL 編集委員会は，日本教育工学会（JSET）と教育システム情報学会（JSiSE）が協力して今年度新たに発刊した英文誌”Information and Technology in Education and Learning” (ITEL)を編集するための委員会です．ITEL は J-STAGE をプラットフォームとしたオンラインのオープンアクセスジャーナルになっています．こちらの編集委員会は JSET と JSiSE の共同運営になっており，編集委員長の望月先生・鷹岡先生を中心に 20 名の編集委員が編集作業にあたっています．ジョイントプロジェクト立ち上げの大変な苦労を乗り越え，日本を代表し世界的にも知られる教育工学領域の英文誌に成長できるよう，現在論文の掲載が進んでいます．

論文が学会誌に掲載されるということは，執筆者にとって研究業績が増えるということでもありますが，本質的には学術コミュニティが知を共有し新たな知を生産するための重要なステップです．あらゆる研究は，先行研究を踏み台にして「巨人の肩の上にたつ」ところから始まります．和文誌「日本教育工学会論文誌」・英文誌「ITEL」にぜひ多くの論文を投稿していただき，力をあわせて教育工学を発展させていければと考えております．

日本教育工学会 2021 年秋季全国大会(第 39 回)の開催

大会実行委員会委員長　山本朋弘（中村学園大学）

2021 年 10 月 16 日（土）～17 日（日）にオンラインで開催されました日本教育工学会 2021 年秋季全国大会（第 39 回）について，大会実行委員会を代表して開催についてご報告申し上げます．

一昨年度から秋季と春季の年２回の全国大会が，それぞれ２日間で開催されることになりました．学会の執行部体制も変わり，堀田龍也新会長のもとでの第１回開催となります．今回の秋季全国大会では，COVID-19 の感染が再拡大している現状を踏まえ，昨年度に引き続きオンラインにより開催することとなりました．北九州での開催を期待していた皆様におかれましては，残念なこととなりましたが，新しい生活様式に対応した全国大会として開催できたと思います．最終的な参加登録者数は，一般会員 414 人，学生会員 160 人，非会員 44 人，非会員学生 53 人，関係者（企業展示，取材ほか）11 人の合計 682 人となりました．多くの皆様のご協力を得られた結果だと感じています．

オープニングセレモニーから，チュートリアルセッション，キーノート・シンポジウム，企業展示，ポスター発表，全体会，懇親会，President Talk，企画セッション，ランチセッション，クロージングセレモニーに至るまで，無事に終えることができたのは有り難い限りです．初日に，アクセス集中によって，Web サイトへの接続ができない状況がありましたが，関係者の対応によってすぐに復旧することができました．

昨年度の大会に引き続き，オンライン開催ならではの強みを生かした大会となるよう準備を進めてまいりました．キーノート・シンポジウムでは，ネットワークを介してスピーカーに登壇していただき，チャット等を用いて全参加者でディスカッションをする機会を，そして同時通訳の機能を提供しました．ポスターセッションでは，セッション中の意見交換のみならず，大会期間を通してポスターを閲覧したり，セッション時間以外にも発表者と参加者が意見交換したりできるシステムを取り入れました．チュートリアルセッションと企業展示については，オンデマンド形式での映像配信に加えて，担当者と意見交換を行う機会を設けました．

当初中止を予定していた「懇親会」は，最終日にオンラインで開催しました．開催地の予定だった，北九州の雰囲気を少しでも味わっていただけるよう，北九州の名所を紹介するオープニング映像を用意して，参加者の皆様にとても好評でした．そして，懇親会のブレイクアウトルームは，予想以上に好評でした．ランダムに分けられた数名の「部屋」や，テーマを設定した「部屋」では，初めて出会う方もいらっしゃる中で，いろいろな話で盛り上がっていたようでした．通常のリアルな懇親会で得られない新しい出会いもあったようです．多くの皆様に支えられて，無事に大会を終了することができました．関係者の皆様，参加者の皆様には心から感謝申し上げます．誠にありがとうございました．

日本教育工学会 2022 年春季全国大会のお知らせ（第三報）

日本教育工学会 2022 年春季全国大会は鳴門教育大学にて開催予定でしたが，新型コロナウイルス感染症対策として，研究発表，自主企画セッションについてはオンライン開催となりました．前回同様，多くの方々のご参加をお待ちしています．また，研究発表にもふるってご応募下さい．

1. 開催期日・会場

期日：2022 年 03 月 19 日（土）～03 月 20 日（日）
会場：オンライン開催
ホスト校：鳴門教育大学

2. 大会日程

各日のスケジュールは下記の通りになっています. 発表申込件数によって各セッションの発表件数，ならびに時間を調整する可能性がありますので，ご了承ください．

03 月 19 日（土）	03 月 20 日（日）
08:45～08:55 オープニングセレモニー 09:00～10:30 研究発表／学生セッション／ International Session 10:40～12:10 研究発表／自主企画セッション	 09:00～10:30 研究発表／学生セッション／ International Session 10:40～12:10 研究発表／自主企画セッション
13:30～15:20 研究発表 15:30～17:20 研究発表	13:00～14:30 代議員総会／全体会／ SIG セッション 14:40～16：40 シンポジウム 16:45～17:00 クロージングセレモニー
18:00～20:00 懇親会	

3. 今大会での注目点・注意点

（1）講演論文集等について
・講演論文集はオンライン配信に一本化し，USB での配布をいたしません．あらかじめダウンロードの上，ご参加下さい．
・USB での講演論文集をご希望の方は，１つ 4,000 円（+送料 500 円）で販売しますので，学会終了後,学会事務局にて購入方法についてお問合せください．冊子版の販売はございません．

（2）セッション・企画について
・春季全国大会の発表は，口頭発表のみとなります．
・研究発表の枠では，一般研究発表と学生セッションを開催します．また，研究発表とは別に自主企画セッション，International Session を開催します．
・一般研究発表と学生セッションのテーマのカテゴリーは 2020 年度までの SIG のテーマに従ったものとなります．

・シンポジウムはライブ配信を基本とし，現地参加の可能性も検討しております．配信プラットフォーム，アクセス方法については決まり次第，大会ウェブサイト，ならびにニューズレターにてお知らせいたします．

（3）参加費について
参加費は，オンライン配信の講演論文集を含んだ価格となります．

4. 大会の参加申込及び受付等について

大会に参加を希望される方は，以下の手順に従って申し込みをお願いします．

（1）参加費等について
発表者の事前支払期限は 2022 年 02 月 11 日（金）17:00 です．発表者以外の方の事前支払期限は 2022 年 03 月 11 日（金）17:00 で，振込・振替での期限は 2022 年 03 月 14 日（月）です．

参加費
発表者

	早割価格 11 月 12 日～02 月 11 日（17:00）
正・准会員（名誉会員は無料）	7,000 円
学生会員	0 円

発表者以外

	早割価格 11 月 12 日～03 月 11 日（17:00）	一般価格 03 月 11 日（17:00） ～03 月 20 日（14:30）
正・准会員（名誉会員は無料）	7,000 円	9,000 円
学生会員	0 円	2,000 円
非会員	9,000 円	11,000 円
非会員の学生	2,000 円	4,000 円

講演論文集代（USB 版）：4,000 円

（2）参加費に関する注意点
・事前（早割）支払期限以降に送金された場合は，一般（当日）参加の場合との差額をお支払いいただきます．事前（早割）支払期限までに発表者の参加費ならびに，上述差額についての納入が確認できない場合は，発表取り消しとなりますので，ご注意下さい．
お支払い後，2022 年 03 月 15 日（火）までのキャンセルについては，春大会企画委員会（s-taikai2022@jset.gr.jp ）までご連絡下さい．送金なさった分を次年度の年会費に振り替えることができますが，**返金自体はできません**．また，非会員の方がキャンセルされる場合は入会をしていただくことになります．この日以降は，ご連絡いただいても，原則として振り替え等ができないことをご了承下さい．
卒業見込み年月が過ぎた学生会員で継続の連絡がない場合は，「准会員」に会員種別が変更されています．学生会員としての特典はありませんので，ご注意下さい．

（3）事前（早割）の送金と参加登録について
発表申し込み，事前参加申し込みのシステムには，大会 Web サイト（https://www.jset.gr.jp/taikai40/index.html ）からアクセスして下さい．支払い方法は，「①クレジットカード」「②払込・振替」の２つから選択できます．

① クレジットカードによる支払い
・申し込み後に，クレジットカードの情報を入力する画面に進めます.
② 振込・振替
・申し込み時に表示される金額と送金内容を，郵便局に備え付けの払込取扱票に記入して，郵便局の窓口から送金して下さい．必ず会員番号をご記入下さい.

5. 一般研究（口頭発表）

春季全国大会の一般研究発表は口頭発表のみです．所定の時間内に発表を終え，質疑応答時間を設定します．発表者交代のための時間を１分設けます．また，International Session も一般研究発表と並行で行います．発表テーマカテゴリーは旧 SIG テーマに沿って設定しています．発表内容について該当する SIG テーマがない場合は「その他」を選択してください.

なお，ご希望された発表テーマカテゴリーは希望者数に応じて，春大会企画委員会で調整させていただく場合がございます.

開催予定のテーマカテゴリーは以下のとおりです.
（1）高等教育・FD，（2）教師教育・実践研究，（3）教育・学習支援システムの開発・実践，（4）教育の情報化，（5）ゲーム学習・オープンエデュケーション，（6）協調学習・学習科学，（7）インストラクショナルデザイン，（8）メディア・リテラシー，メディア教育，（9）コンピテンシースタンダードと能力評価手法の開発，（10）情報教育，（11）人工知能の教育利用，（12）STEM 教育，（13）小学校プログラミング教育，（14）その他

お申込になりたい SIG テーマは学会ウェブページの SIG 活動（https://www.jset.gr.jp/sig/ ）にも掲載されていますので，そちらをご覧下さい.

6. 一般発表セッションの発表時間

発表時間は 20 分（発表 14 分，質疑応答５分，交代１分）です.

7. International Session

昨年度に引き続き，International Session を実施致します.

本セッションでの発表および質疑応答は，英語で行われます．本セッションは，教育工学研究の国際化に対応するものであるとともに，特に若い研究者に対しては，国際学会等での研究発表や討論に備える体験を提供する機会でもあります. 発表は一般研究発表と同じ時間帯で実施しますが，１日目・２日目それぞれ 09：00 からのセッションを予定しております.

We would like to invite you to the International Session on the annual conference. The purpose of this session is to provide an opportunity to present papers and engage in scholarly discussions in English, and thus promote internationalization of the JSET community.

This International Session will be run in parallel with the presentation session (一般研究発表). Young scholars as well as experienced researchers are all welcome. Papers related to the following topics are invited to the Session.

8. 発表内容の撮影，記録，録画等について

今回のオンライン開催において,発表者，参加者の双方に次のことをお願いいたします.
(1) 発表者は参加者が発表内容を撮影，録音，録画する可能性のあることを承知の上で発表して下さい．参加者に記録されると問題が生じる可能性がある場合には，発表者自身が参加者に記録しないよう指示して下さい.
(2) 撮影，録音，録画したものについて，日本国の著作権法が規定している範囲以外で利用される場合は，発表者の許可をとって下さい.
(3) 大会スタッフが記録用写真やニューズレター用写真を撮影します．撮影を拒否される方は，記録係のスタッフに撮影しないようお伝え下さい.

9. SIG セッション

日本教育工学会では現在，研究グループである”Special Interest Group (SIG)”で研究活動を活発に進めています．それぞれの SIG からこれまでの研究テーマや活動，JSET における役割などを紹介します．

10. シンポジウム

大会２日目の午後にはシンポジウム「教育工学における教育実践研究のススメ」が開催されます．詳細が決まり次第，Web ページ，ニューズレターにてお知らせ致します．

概要：

教育工学における教育実践研究で重視される要素の一つに，科学的な問題解決がある．しかしながら，対象となる教育実践の課題固有性が高いことや，研究手法の多様性から，教育実践研究で求められる評価の基準が必ずしも固定されていないことが多い．そこで教育工学分野における教育実践研究について，その在り方や方法を改めて議論し，共通認識を高めていくことには大きな意義がある．本シンポジウムは２部で構成される．第一部は，教育工学における教育実践研究で直面する悩みをいくつかとりあげ，研究アプローチ，初等中等教育，高等教育のそれぞれから悩みをどのように克服しながら進めているのか事例をご紹介いただく．第二部では，実践研究を論文誌で採用している隣接領域の学会からシンポジストをお招きし，学術誌における実践研究の意義や位置付けなど俯瞰的な視点での議論を通して，教育工学における教育実践研究の発展を模索する．

11. 学生セッション・自主企画セッション

（1）学生セッション

教育工学に関わる若手育成，若手研究の奨励を目的として，学生セッションを設置します．このセッションは学生のみの発表セッションで，通常の研究発表の後，セッション内でディスカッションの時間（20 分間）を設け，発表について，発表者と参加者が深く議論することができるようにしております．発表テーマのカテゴリーは一般発表セクションに従いますが，希望者数によっていくつかのテーマを統合する可能性もあります．ご希望の方は講演申込システムの発表セッションにて，「学生セッション」の希望を選択してください．

（2）自主企画セッション

自主企画セッションは日本学術振興会（JSPS），科学技術振興機構（JST）などの公的機関や財団から受けた研究外部資金による研究成果の発信，普及を目的に，シンポジウムやワークショップなどのセッションを自主企画し，実施するものです．申請者は上記研究費を取得している研究者，または研究チームとなります．セッション形態は自主企画になりますので，お申し込みされる研究代表者，ならびに研究チームで決定して下さい．

自主企画セッション設置について，下記の通り注意点がありますので，ご承諾の上，お申し込み下さい．

・自主企画セッションは，教育工学研究に関する外部研究費（日本学術振興会や JST による研究費などの公的外部研究費や財団による研究支援）による研究成果を公開することを目的としたものです．企業等からの共同研究費・研究委託金による研究は，本セッションでは受け付けておりません．
・本セッションは，研究代表者・登壇者・分担者・運営者も含めて１件のみ申請できます．この申請書のリストに載っている方は，登壇者・分担者・運営者も含め，別の自主企画セッションの申請や登壇はできません．
・研究代表者は，日本教育工学会の会員でなければなりません．
・本セッションは 90 分です．
・本セッションの開催費は 20,000 円です．2022 年 02 月 11 日までに学会指定の口座までお振り込みください．振り込まれない場合は申請をキャンセルいたします．
・本セッションの開催費について申請後，キャンセルされましても，返金できませんので，ご注意下

さい．また来年度に繰り越すこともできません．
・非会員の方が本セッションへの登壇や運営をされるなど，企画者側として参加される場合は，非会員カテゴリーの参加費を 2022 年 02 月 11 日までにお支払いください．
・本セッションがお申込多数の場合や一般研究とのプログラム調整の必要性などの諸事由により，申請者の一般セッションの申込数，内容，研究費による研究成果などの観点から選抜をさせて頂くことがございます．あらかじめご了承ください．なお，研究費の規模は採否基準に含めません．結果は，2021 年 12 月 24 日までにメールにて申請者へご連絡いたします．
　その他注意点もございます．詳細は必ず大会 Web ページと申請書をご覧下さい．

　注意点についてご承諾され，お申し込みされたい方は大会ウェブサイトからフォーマットをダウンロードして頂き，そちらにご記入の上，メールにて春季大会企画委員会（s-taikai2022@jset.gr.jp ）までご提出ください．

12. 大会までのスケジュール

2021 年 11 月 12 日	金	一般研究発表・自主企画セッション申込・原稿提出開始 参加費事前送金開始
2021 年 12 月 17 日	金	自主企画セッション申込締め切り
2021 年 12 月 24 日までに	金	自主企画セッション採否結果通知
2022 年 01 月 7 日 17:00	金	一般研究発表原稿提出締め切り
2022 年 02 月 11 日 17:00	金	発表者の参加費送金締め切り（クレジット，振込・振替ともに） 自主企画セッション開催費送金締め切り
2022 年 03 月 11 日 17:00	金	発表者以外の参加費事前（早割）送金締め切り （クレジット，振込・振替ともに）
2022 年 03 月 14 日 17:00	月	発表者以外の参加費事前送金締め切り（振込・振替）

* 一般発表，自主企画セッションともに提出原稿の差し替え期間はございませんので,ご注意下さい．

13. 一般発表申込に関する注意点

（1）発表者の資格
・[発表者]は，本学会の会員に限ります．ただし，会員以外が連名者となることは，差し支えありません．ここでいう[発表者]とは，ファースト・オーサーあるいは連名者という意味ではなく，大会当日発表される方です．
・[発表者]が年会費を納入されていない場合は，発表申し込みを行えません．また，[発表者]には，事前に大会参加費を送金して頂くことになっております．なお，大会企画委員会が特に発表を依頼した場合はこの限りではありません．
・維持会員に所属する方は，個人会員として入会していなくても最大３名まで発表ができます．ただし，大会参加費はお支払いいただきます．該当する発表者は，2022 年 01 月 06 日（木）までに大会企画委員会（s-taikai2022@jset.gr.jp）にご連絡下さい．この期限を過ぎた後の受付はできませんので，ご注意下さい．

（2）一般発表申込件数の制限
・会員は，一般研究で１件，International Session で１件を発表者として申し込むことができます．
・発表者でない連名者の件数には，制限はありません．

（3）一般研究の発表申込方法
・詳細が決まり次第，大会 Web サイトにてご案内します．その案内に従って，原稿ご提出をお願いします．
・発表日時の希望には応じられません．
・原稿の提出締め切り日時は，2022 年 01 月 07 日（金）17:00 です．

（4）原稿ファイルの作成と提出

・書式は，大会 Web サイトに掲載されるテンプレートをご参照下さい．原稿は，A4 サイズで２ページです．１ページや３ページ以上のものは受け付けません．

・講演論文集の電子ファイルは，本文中の文字列が検索できる方法で製作します．そのため，原稿ファイルは PDF/X-1a 形式で提出して頂きます．

・その他の原稿ファイル作成時の注意点

1．PDF 作成時に，図表やキャプションの位置が意図しない場所に移動することがあります．作成した PDF を印刷してチェックしたのち，投稿して下さい．

2．PDF にフォントが埋め込まれているか自信がない場合には，一般的なフォント，文字コードを利用して下さい．文字コードによっては，検索できない場合もあります．

3. 提出して頂いたファイルの書式や文字化け等のチェック作業は，大会企画委員会では行いません．

（5）その他,発表に関するお願いや注意点

・原稿は，あるレベルで完結した内容であることを求めます.「結果は当日会場で発表する」等の書き方はしないで下さい．大会企画委員会で判断し，修正を求める場合があります．

・著者の欄は研究室名や研究チーム等，団体名ではなく，各著者のご氏名，ご所属をそれぞれ記載するようにしてください．

・類似の内容，シリーズ的な内容を複数の発表者に分割して申し込むことはできません．

・講演論文集の発行日は，事前申込者がダウンロード可能になる日です．

・提出された原稿は，学会が Web サイト等に掲載することを許諾していただきます．

13. 問い合わせ先

大会全般に関しては以下にお問い合わせ下さい．

大会企画委員会（春季全国大会）問い合わせ用電子メールアドレス：s-taikai2022@jset.gr.jp

春季大会企画委員会

委員長	森田裕介	（早稲田大学）
副委員長	松河秀哉	（東北大学）
	泰山裕	（鳴門教育大学）
幹事	椿本弥生	（東京大学）
	川面きよ	（帝京大学）
委員	遠海友紀	（東北学院大学）
	大山牧子	（大阪大学）
	小林由昭	（内田洋行）
	今野貴之	（明星大学）
	竹中喜一	（愛媛大学）
	辻宏子	（明治学院大学）
	長濱澄	（東北大学）
担当副会長	村上正行	（大阪大学）

春季大会実行委員会

実行委員長	藤村裕一	（鳴門教育大学）
実行副委員長	泰山裕	（鳴門教育大学）
実行委員	川上綾子	（鳴門教育大学）
	藤原伸彦	（鳴門教育大学）
	林向達	（徳島文理大学）

日本教育工学会研究会 https://www.jset.gr.jp/study-group/

研究会の開催

テーマ　高等教育の質保証／一般
●日　　時：2021 年 12 月 04 日（土）
●会　　場：オンライン開催（担当：中澤正江）
　　※京都産業大学での現地開催は中止です．
●担　　当：study-group-core@jset.gr.jp

プログラム　　発表時間：発表 1 件につき 24 分（発表 19 分，質疑 5 分）

＊最新の情報は研究会 HP に掲載しております．

10:00～10:05　諸連絡
10:05～12:10　午前の部

A1) 教員養成課程における GIGA スクール構想に対応した学生を対象とした教員の ICT 活用指導力の育成を目指した試み
小倉光明（信州大学），佐藤 和紀（信州大学），村松浩幸（信州大学），森下孟（信州大学）
A2) PBL 型授業における対話型レポートの評価方法の開発
牧野みのり（早稲田大学大学院），尾澤重知（早稲田大学）
A3) 学んだ知識を実践に活かすための働きかけ(2)
波多野 和彦（江戸川大学），中村 佐里（尚美学園大学），三尾 忠男（早稲田大学）
A4) 保育者養成における情報活用指導能力育成のためのカリキュラム開発
中村佐里（千葉経済大学短期大学部），波多野和彦（江戸川大学）

B1) キャリア形成を育む学校インターンシップカリキュラムの開発と実践
峯村恒平（目白大学），山本礼二（目白大学），枝元香菜子（金沢学院大学），
渡邉はるか（目白大学），藤谷哲（目白大学），多田孝志（金沢学院大学）
B2) 教員養成課程におけるプログラミング教育の内容とその効果の分析
神生凌我（信州大学），下崎高（信州大学），村松浩幸（信州大学），佐藤和紀（信州大学），
森下孟（信州大学）
B3) 社会イノベーションを目指す人材育成のためのプログラミング教育のデザイン
武田亘明（札幌市立大学）
B4) 中学校技術分野におけるプログラミング教育内容の教科書での比較
深谷和義（椙山女学園大学）
B5) １人１台端末を活用した小学校の授業場面における教師が設定する学習活動の意図の調査
南條優（常葉大学），佐藤和紀（信州大学），三井一希（常葉大学）

C1) 小学校３学年「昆虫の体のつくり」の単元における教材を用いた理科指導法の一考察
吉澤樹理（関西福祉大学・明星大学通信制大学院），今野貴之（明星大学）
C2) 肢体不自由特別支援学校における遠隔合同授業の効果分析―批判的思考態度を中心とした考察―
小田桐敬（青森県立青森第一養護学校），新洋子（筑波大学附属桐が丘特別支援学校），
池田真悟（愛知県立ひいらぎ特別支援学校）
C3) メディアや情報に対して小学校高学年の児童がもつステレオタイプやバイアスに関する実態調査
手塚和佳奈（信州大学大学院），佐藤和紀（信州大学），大久保紀一朗（雲南市立木次小学校），
久保田善彦（玉川大学大学院），堀田龍也（東北大学大学院），谷塚光典（信州大学）
C4) 新・逆向き設計に基づく理科「探究活動」用教材の開発
浅野智亮（東京工業大学），松田稔樹（東京工業大学）

C5) コロナ禍以降の小学校におけるオンライン授業の実践事例の分析
池田彩乃（常葉大学），佐藤和紀（信州大学），三井一希（常葉大学）

13:05～13:10　委員会挨拶・諸連絡
13:10～15:15　午後の部①

A5) 正課と正課外の学習活動の往還によるキャリア展望の具体化に関する研究
山本良太（東京大学大学院），鈴木慶樹（瀬戸 SOLAN 小学校）
A6) 越境的教育実践コミュニティにおけるパターン・ランゲージ開発の試み
長田尚子（立命館大学），デイヴィス恵美（大阪成蹊大学），神崎秀嗣（秀明大学），
町田小織（東洋英和女学院大学），髙尾郁子（京都薬科大学），田中浩朗（東京電機大学）
A7) コロナ禍におけるラーニングコモンズでの支援内容の変化に関する調査
遠海友紀（東北学院大学），嶋田みのり（東北学院大学），千葉美保子（甲南大学），
川面きよ（帝京大学），松井きょう子（京都外国語大学），岩﨑千晶（関西大学），
村上正行（大阪大学）
A8) スキャフォルディング・ストラテジーにみるピア・チューターの学習支援力
中村美智子（公立はこだて未来大学），冨永敦子（公立はこだて未来大学）
A9) 学生の歴史性に着目した正課外の学習－参加の動機の分析を通して－
久保槙祐野（明治大学大学院），岸磨貴子（明治大学）

B6) 大学におけるブレンド型授業の実態調査
阿部真由美（早稲田大学），森田裕介（早稲田大学）
B7) コロナ禍におけるオンライン大学に入学した社会人の入学動機
田中理恵子（早稲田大学大学院），向後千春（早稲田大学）
B8) MOOC 受講後の学習継続に影響を与える要因の分析
坂本亘（北海道大学），重田勝介（北海道大学）
B9) 学習意欲とオンライン授業受講形態の関連性
田中仁一郎（東京大学），椿本弥生（東京大学）
B10) 高等教育で求められるクリティカルシンキングスキルの国際水準とは
宮尾万理（京都外国語大学）

C6) クラウドでの共同編集機能を用いた学習指導案の修正過程の分析
八木澤史子（大田区立西六郷小学校），安里基子（与那原町立与那原小学校），
遠藤みなみ（富士市立吉原小学校），佐藤和紀（信州大学），堀田龍也（東北大学大学院）
C7) 表情分析の活用による授業分析の試み—教師の発話内容による子どもの感情の変化に注目して—
CAIYUYING（名古屋大学大学院），柴田好章（名古屋大学大学院）
C8) 学校の初任者教師の ICT 活用に関する省察の実態把握の試み
遠藤みなみ（富士市立吉原小学校），佐藤和紀（信州大学），堀田龍也（東北大学大学院）
C9) 高等学校の職業学科における情報に関する専門科目による必履修情報科目の履修代替に関する担当教員の意識
宮崎幸弘（鳴門教育大学大学院），藤村裕一（鳴門教育大学大学院）

15:25～17:30 午後の部②

A10) 筆答テストの採点支援システムにおける解説付き模範解答の作成機能についての検討
中川哲（東北大学大学院），斎藤玲（宮城教育大学），板垣翔大（宮城教育大学），
大西琢也（東京学芸大学附属小金井中学校），堀田龍也（東北大学大学院）

A11）心理的 AI デバイドをアセスメントするテストバッテリーの作成
　片瀬拓弥（清泉女学院短期大学）
A12）初級日本語学習者のための自律学習と教室活動をつなぐ e-learning 教材の開発
　大谷つかさ（京都外国語大学），白鳥文子（京都外国語大学），篠原みゆき（京都外国語大学）
A13）食育支援システムの開発－将来なり得る病気の提示機能の実現－
　櫻井浩章（東京電機大学大学院），中山洋（東京電機大学）
A14）日本人のための中国語学習支援システム
　李碩（神奈川大学大学院），桑原恒夫（神奈川大学大学院）

B11）幼稚園教育実習における学びの成果（2）
　三橋功一（北海道教育大学）
B12）高等教育機関におけるティーチング・アシスタントの汎用的スキルに関する調査
　濵本宗我（早稲田大学大学院），森田裕介（早稲田大学）
B13）オンライン大学で学ぶ女性社会人学生の卒業後の展望と学びに対する周りの人の協力
　石川奈保子（早稲田大学）
B14）教育開発における異文化間協働を通した新しい活動の生成プロセス―ジブチの NGO を事例として―
　関温理（明治大学大学院），岸磨貴子（明治大学）

C10）政策評価方法を指導する数学「課題学習」教材
　松田稔樹（東京工業大学）
C11）樹木理論による教育・人材育成モデルの構成
　北垣郁雄
C12）活動デザインの差異による高校福祉教育の教育効果に関する考察
　中山見知子（鳴門教育大学大学院），藤村裕一（鳴門教育大学大学院）
C13）動画教材を用いていかにして学習意欲を高めるか―ARCS モデルにもとづく動画教材の開発―
　大井良知（大阪教育大学附属高等学校池田校舎）

●発表時間：当研究会は会員・非会員による討論の場を作ることを目的として開催してきました．討論時間を確保するために，持ち時間 24 分において質疑応答の時間を 5 分以上は確保していただいております．よろしくご理解願います．
●事前参加登録締め切り：11 月 27 日（土）
オンライン実施のため，以下のサイトでの事前参加登録を必須とします．
https://www.gakkai-web.net/p/jset/society_reg/new2.php?i=KiUWsd5F
この URL は研究会 HP にも掲載していますのでご利用ください．年間パスのかたも参加登録が必要です．登録された方にのみ参加者限定 HP の URL をお送りします．なお，発表者の募集はすでに締め切っています．
●参加費：参加登録時に 1000 円/1 回(会員・非会員共通)，または 2000 円／年間 4 回「研究会参加年間パス」制度のいずれかのお支払いをお願いします．
※発表者にはこれに加えて発表料も必要です．詳しくは下の「研究会の運営について」をご覧ください．
●オンライン参加の方法や注意点については，参加者限定 HP に掲載しています．

研究会の運営について

●研究会報告集の冊子体の廃止および J-STAGE でのオープンアクセス化に伴い，研究報告集代や年間購読制度は廃止し「参加費」「発表料」を以下のように設定することになりました（2021 年 02 年 03 日告知）．
●参加費：a か b のいずれかが必要
(a)1000 円／1 回（会員・非会員共通），(b)2000 円／年間 4 回「研究会参加年間パス」制度会員のみ
※年間パスについて：当該年度内の 4 回の研究会のすべてに参加可能になります．ただし年度当初に年

会費などとともに会員専用ページなどで支払いをしていただく必要があります．
なお，今年度の申し込みはすでに締め切っております．
※連名の発表において，当日参加されない著者の方の参加料は不要です．
●発表料（参加費に加えて，口頭発表者は以下の料金をお支払いいただきます）
(a)1000 円／１回（会員），(b)2000 円／１回（非会員）
※発表１件につき１回分の支払いをお願いしています．連名の発表の場合，たとえば，代表発表者が発表料を支払えば，他の連名者は発表料の必要はありません．一方，参加費の方は，当日参加される人すべてにお支払いいただきます．

新型コロナウイルス感染症に関する研究会の対応について

新型コロナウイルス感染症に関する本学会の対応について（2020 年 04 月 02 日公表）
https://www.jset.gr.jp/news/news-2035/ に従い，感染拡大状況に応じて，研究会の現地開催を中止する場合があります．中止の場合は，随時本学会ホームページに掲載いたします．現地開催が中止の場合でも，オンラインで代替開催可能なものはオンラインで開催することがあります．イベント前に，必ず本学会ホームページをご確認下さい．

研究会の開催報告　テーマ：メディア・リテラシー／一般

●日時：2021 年 10 月 30 日
●会場：オンライン開催
●発表件数：32 件（内非会員　５件）
●参加者数：138 名（内非会員　６名）

2021 年 10 月 30 日（土）に開催した研究会は，「メディア・リテラシー」をメインテーマとし，一般発表と合わせて 32 件の発表がありました．当初は国際医療福祉大学（小田原キャンパス）で実施予定でしたが，前回に続き，新型コロナウイルス感染拡大防止の観点からオンラインでの開催となりました．当日は３会場で午前午後に７つのセッションが行われ，計 32 件の発表がありました．いずれのセッションにおきましても，発表内容についての活発な議論や様々な情報交換があり，大変有意義な研究会となりました．

本研究会にご参加いただきました皆様，また開催にあたりご支援・ご協力をいただきました皆様に深く御礼を申し上げます．ありがとうございました．
※オンラインでの開催だったため，研究会の様子の写真がありません．ご了承ください．

担当：鶴田利郎（国際医療福祉大学）

日本教育工学会論文誌特集号論文募集のお知らせ（最終報）「特集：COVID-19 以降の高等教育の新展開：学習環境の改善・改革・革新」のご案内

2020 年春以降続いている COVID-19 の流行は，９月以降一応の落ち着きを見せているものの，高等教育にも大きな影響を与え，従来多くの大学において一部の教員だけの取組であった ICT 活用教育を，全国のほとんどの教員が担当せざるを得ない状況を作り出しました．その後，大学が置かれている状況に応じて対面授業が再開されていますが，高等教育は COVID-19 流行前とは異なる様相を見せ，文科省の調査でも対面とオンラインのブレンドが主流になった状態が続いています．教育工学を研究する者の多くは，まず，緊急避難的措置として始まったオンライン授業においてノウハウや知見の提供を求められ，次に，そのレジェンドを活かす教育・学習環境の改善に取り組んでいると考えられます．今回の特集号では，このような実践や，COVID-19 を経た高等教育から得ることができる知見を募集します．

1. 対象分野

本特集号で募集する論文テーマの例を示します．COVID-19 の流行が高等教育に与えた影響，あるいはこれから与える影響を含むリサーチクエスチョンを歓迎します．以下のテーマはあくまで例であり，高等教育の様々な側面に焦点を当てた研究を幅広く募集します．

（1）オンラインライブ授業の教授法，授業設計，授業実施に必要なスキル
（2）ハイブリッド・ハイフレックス型授業を支えるシステム開発
（3）オンラインアクティブラーニングのファシリテーション，学習支援
（4）オンデマンドコンテンツの開発，活用方法
（5）オンラインテスト等，遠隔での学習成果測定方法
（6）COVID-19 の下での FD とその効果
（7）ポスト・ウィズコロナ時代の学習環境整備，教育質保証

2. 募集論文の種類

通常の論文誌と同様に，「論文」「システム開発論文」「教育実践研究論文」「資料」「寄書」を募集します．それぞれの論文種別については，投稿規定をご覧下さい．論文の査読は，通常の論文誌の場合と同じです．ただし，査読は２回限りとし，編集委員会が示した掲載の条件を修正原稿で満たさない場合は採録になりません．「ショートレター」として既に掲載されている内容を発展させて「論文」として投稿することも可能ですが，単に分量を増やして詳細に説明しただけでは発展させたことになりませんのでご注意下さい．なお，本特集号へ投稿された論文が特集号編集委員会にて対象分野外と判断された場合には，一般論文として扱うことになります．あらかじめご了承下さい．

3. 論文投稿締め切り日（2022 年 11 月発行予定）

論文投稿締め切りは 2022 年 02 月 10 日（木）17 時，最終原稿提出締め切りは同じく 02 月 17 日（木）17 時です．

投稿原稿提出締め切り（電子投稿）：2022 年 02 月 10 日（木）17:00
最終原稿提出締め切り（電子投稿）：2022 年 02 月 17 日（木）17:00

4. 論文投稿の仕方

原稿は，「執筆の手引」（https://www.jset.gr.jp/journal/instructions-for-authors/ ）に従って執筆し，学会ホームページの会員専用 Web サイトから電子投稿して下さい．郵送による投稿は受け付けておりません．

5. 問い合せ先

日本教育工学会事務局：tokushu2022@jset.gr.jp

6. 特集号編集委員会

特集号編集委員長	松田岳士	（東京都立大学）		
特集号副編集委員長	田口真奈	（京都大学）	重田勝介	（北海道大学）
特集号幹事	渡邉文枝	（早稲田大学）	長濱澄	（東北大学）
委員（50 音順）	市川尚	（岩手県立大学）	稲垣忠	（東北学院大学）
	岩崎千晶	（関西大学）	大浦弘樹	（東京理科大学）
	大山牧子	（大阪大学）	倉田伸	（長崎大学）
	米谷雄介	（香川大学）	今野貴之	（明星大学）
	瀬戸崎典夫	（長崎大学）	時任隼平	（関西学院大学）
	冨永敦子	（公立はこだて未来大学）	伏木田稚子	（東京都立大学）
	藤本徹	（東京大学）	舟生日出男	（創価大学）
	光原弘幸	（徳島大学）	村上正行	（大阪大学）
	森裕生	（鹿児島大学）		

ショートレター増刊号論文募集のお知らせ（第二報）

日本教育工学会論文誌 vol.46 Suppl.の発行
論文受付締め切り：2022 年 04 月 01 日（金）17:00

日本教育工学会論文誌 vol.46,Suppl.は，年１回発行されるショートレターの増刊号です．奮ってご投稿下さい．

投稿規定に明記していますが，以下の点を投稿にあたってご注意下さい．

1. ショートレターは，教育工学に関する，実践的な研究成果，新しい試みやその結果等，教育システム開発等を記述したもの．新規性（オリジナリティ）は必ずしも高くなくても，実践研究の方法と成果を明確に記述したものです．
2. 刷り上がり４ページ厳守です．（４ページを超えるものは採録しない）
3. 筆頭著者（ファースト・オーサー）は本学会会員であることが条件です．あるいは，筆頭著者が投稿時に入会手続きおよび会費納入等をすることが必要です．なお，各会員はショートレターを年１編に限り投稿できます．
4. 2022 年 12 月に発刊の予定です

ショートレターの内容については，例えば，以下のような内容が考えられます．

- 全国大会や研究会で発表した内容をまとめたもの
- 教育システム開発や教育実践をベースにした実践と知見をまとめたもの
- 教育工学研究としての速報的な内容
- 卒業論文や修士論文等としてまとめた内容など

なお，ショートレターとして掲載されたものを一層充実させて，論文あるいは資料としての条件を満たすように記述したものは，論文あるいは資料に投稿できます．

ページ数が限られていることから，タイトル，著者，内容については十分厳選の上，ご執筆下さい．

特に，ショートレターの趣旨から，多人数の連名著者はさけて下さい．研究全体がプロジェクトチームによる共同研究であっても，実際にショートレターの限られた内容に直接携わり，執筆した研究者にして下さい．

ショートレターの査読日程予定
（2022 年度）：

04 月　担当及び査読者の指名
05 月　編集委員会で査読進捗状況の確認
07 月　編集委員会で採録，返戻の第１回決定
09 月　編集委員会で採録，返戻の第２回決定
10 月　最終原稿の提出
11 月　著者校正
12 月　ショートレター増刊号発行予定

投稿の仕方：

原稿は，「投稿規程」と「原稿執筆の手引」（https://www.jset.gr.jp/journal/instructions-for-authors/ ）に従って執筆し，学会ホームページの会員専用 Web サイトより電子投稿して下さい．会員の ID とパスワードが必要です．投稿論文は電子投稿でのみ受け付けています．

問い合わせ先：
日本教育工学会事務局
電子メール：short@jset.gr.jp
Tel：03-5549-2263

最近の論文投稿数と採択率

本学会の論文誌，英文誌に投稿されました論文の数と採択率を以下に示します．
ただし，2021 年は，2021 年 04 月から 09 月までに投稿された数となります．　　編集長：山内祐平

論文誌（特集号以外）

投稿年度	種別	投稿数	採択	返戻	取り下げ	(査読中)	採択率(%)
2019 年度	論文	48	18	27	3		38
	教育システム開発論文	9	2	4	3		22
	教育実践研究論文	21	7	12	2		33
	資料	20	11	7	2		55
	寄書	1	1				100
2020 年度	論文	40	16	20	4		40
	教育システム開発論文	4	1	3			25
	教育実践研究論文	28	11	13	3	(1)	41
	資料	33	11	18	3	(1)	34
	寄書	2	1	1			50
2021 年（04 月～09 月）	論文	24	6	3	2	(13)	55
	教育システム開発論文	3				(3)	-
	教育実践研究論文	17	4	6		(7)	40
	資料	10	1	6		(3)	14
	寄書	2		1		(1)	0

論文誌（特集号）

投稿年度	種別	投稿数	採択	返戻	取り下げ	(査読中)	採択率(%)
2019 年度	論文	3		3			0
	教育実践研究論文	12	3	8	1		25
	資料	4	2	1	1		50
	寄書	2		2			0
	巻頭言・総説・展望	4	4				100
2020 年度	論文	2			2		0
	教育システム開発論文	3		1	2		0
	教育実践研究論文	14	1	7	6		7
	資料	5	3	1	1		60
	寄書	2	2				100
	巻頭言・総説・展望	3	3				100
2021 年	論文	3	1	2			33
	教育システム開発論文	3		3			0
	教育実践研究論文	4	3	1			75
	資料	7	3	3	1		43
	巻頭言・総説・展望	4	4				100

論文誌（ショートレター）

投稿年度	種別	投稿数	採択	返戻	取り下げ	(査読中)	採択率(%)
2019 年度	ショート	99	45	50	4		45
2020 年度	ショート	124	53	58	13		43
2021 年	ショート	113	58	43	11	(1)	52

英文誌

投稿年度	種別	投稿数	採択	返戻	取り下げ	(査読中)	採択率(%)
2019 年度	Paper	1	1				100
	Technical Information	1	1				100
	Translation	10	9	1			90
2020 年度	Translation	13	12			(1)	100
2021 年（04 月～09 月）	Translation	2	1			(1)	100

学会ホームページの更新情報について

広報委員会

研究会の受付開始や論文募集など，学会ホームページの更新情報は，JSET の Facebook や Twitter で受け取ることができます．学会ホームページ右上の各アイコンから，ご登録ください．

会員の皆様には，学会ホームページの積極的な御活用をお願い申し上げます．

※学会ホームページは，2020 年 7 月にリニューアルしました

日本教育工学会広報委員会 Web 更新情報
Facebook：@jset.kouhou.update（11 月 04 日 17 時現在登録者 55 人）
Twitter：@JSETkoho_update（11 月 04 日 17 時現在登録者 118 人）

文責：登本洋子（東京学芸大学）

一般社団法人日本教育工学会第 19 期第 7 回理事会報告

日時：令和 03 年 09 月 28 日（火）～10 月 01（金）
場所：電子メールによる
出席：理事　　堀田龍也会長，美馬のゆり副会長，村上正行副会長，室田真男副会長，山内祐平副会長，赤倉貴子，岩﨑千晶，大久保昇，緒方広明，小柳和喜雄，北澤武，向後千春，重田勝介，瀬戸崎典夫，高橋純，永田智子，西森年寿，根本淳子，姫野完治，益子典文，益川弘如，松河秀哉，望月俊男，森田裕介，森本康彦
　　監事　　鈴木克明，吉崎静夫
　　総務委員会　池尻良平，伏木田稚子

（合計 29 名）

1．前回の理事会等議事録の承認について
　第 19 期第 6 回理事会記録について原案が提示され，承認した．

2．新入会員の承認について
　会員の移動状況について報告があり，承認した．2021 年 10 月 01 日現在の総会員数は 3,349 名となった．

3．各種委員会から
（1）編集委員会
　学会誌の発行スケジュールについて報告があった．

（2）大会企画委員会
　2021 年度秋季全国大会スケジュールの一部変更について報告があった．

（3）総務委員会
　公益財団法人中山隼雄科学技術文化財団調査研究並びに助成研究の募集について報告があった．
　大学英語教育学会（JACET）創立 60 周年記念国際大会招待状について報告があった．

4．その他
（1）郵送物を確認した．
（2）今後の理事会日程を確認した．

一般社団法人日本教育工学会第 19 期第 8 回理事会報告

日時：令和 03 年 10 月 15 日（土）17:00～18:00
場所：遠隔会議システム（Zoom）
出席：理事　堀田龍也会長，村上正行副会長，室田真男副会長，赤倉貴子，岩﨑千晶，緒方広明，小柳和喜雄，北澤武，重田勝介，瀬戸崎典夫，高橋純，永田智子，西森年寿，根本淳子，姫野完治，益川弘如，益子典文，松河秀哉，望月俊男，森田裕介，森本康彦
監事　吉崎静夫
総務委員会　池尻良平，伏木田稚子

（合計 24 名）

議題１：前回の理事会記録の承認について
一般社団法人日本教育工学会第 19 期第 7 回理事会記録が提案され，承認した．

議題２：新入会員の承認について
会員の移動状況が報告され，承認した．2021 年 10 月 08 日現在の総会員数は 3,365 名となった．

各種委員会から
議題３（編集）
・編集委員会
論文誌編集進捗状況ならびに特集号 45 巻 3 号，45 巻 Suppl.の編集委員と論文誌発行スケジュールが報告された．日本教育工学会編集委員会著作権規程の制定作業が報告され，リーガルチェックのための弁護士費用の支出について承認した．ITEL の業務委託契約に関する覚書の内容の一部修正を承認した．

議題４（戦略・国際）
・企画戦略国際委員会
秋季全国大会で行われる PresidentTalk の映像を，学会 HP から期間限定で配信することについて提案があり，承認した．

議題５（会員サービス）
・大会企画委員会
春季全国大会は，一般参加者の発表についてはオンライン開催とし，シンポジウム等については開催方法を引き続き検討すること，その前提で 11 月 12 日から大会 Web サイトで発表受付を開始することが提案され，承認した．

議題６（広報・顕彰・総務）
・顕彰委員会
研究奨励賞の選考を行うことから，推薦と投票への協力依頼があった．
・総務委員会
国立国会図書館の「令和３年度学術情報の収集・保存に係る学協会アンケート」を回答したことが報告された．会費請求について，来年度の会費及び研究会の年間パスの請求が 12 月以降に開始されるとの報告があった．今年の会計のスケジュールについて報告された．各種委員会の規定の整備状況と今後の予定について報告された．

議題７（特別委員会）
特別委員会で検討してきた論文の扱いについて，執行部の案で進めることで合意した．

その他
・協賛依頼について，承認した．
・郵送物について，確認した．
・今後の理事会日程を確認した．

2022 年会費納入のお願い

2022 年会費の，納入をお願いいたします．

日本教育工学会では，一般社団法人化された際に，会計年は 01 月 01 日から 12 月 31 日までになりました．各会員種別の年会費は右記のとおりです．クレジットカード支払い，郵便局からの払込み，または，会費請求書内面のコンビニエンスストア払込票により年会費をご送金くださるようお願いいたします．（コンビニ決済以外での支払い方法については学会 Web で確認下さい．）

◆会員種別と 2022 年の年会費（01 月～12 月）

会員種別	年会費	入会金
正会員	9,000 円	1,000 円
准会員	5,500 円	
学生会員	5,500 円	
維持会員	50,000 円／口	
名誉会員	免除	-

年会費は，12 月 31 日までに納入をお願いいたします．

本学会では，年会費を納入した会員のみに論文誌を発送しています．過去の年度会費未納の会員が会費を送金された場合には後日まとめて発送します．

◆学生会員について

学生会員は正規の入学者で，研究生は該当しません．

学生会員の所属機関は，必ず大学名となります．所属機関が大学以外の場合には，正会員または准会員となります．

学生会員は，資格条件（大学名，学部名／研究科名，指導教員名，卒業見込／修了見込の年月）を必ず連絡してください．

学生会員として資格条件をご連絡いただかないで，年会費を納入された方は，とりあえず准会員に変更させていただいております．

2022 年「研究会参加年間パス」会費（年額 2,000 円）納入について

本学会では，研究会を 4 回開催しています．2021 年より，研究報告集は J-Stage に登録され，オープンアクセス可能になりました．それに伴い，2020 年までの研究報告集代や年間購読制度は廃止しています．一方，報告集を電子化するための費用等を踏まえ，以下の様に「参加費」と「発表料」という形で料金を設定いたします．

（ア）参加費（いずれかが必要）

(a)1,000 円／1 回（会員・非会員共通）

(b)2,000 円／年間 4 回「研究会参加年間パス」制度（会員のみ）

（2000 円で当該年内の 4 回の研究会のすべてに出席することができます．
ただし，会計年頭のみの受付とします．2022 年の納入締め切りは 04 月 30 日（土）です．）

（イ）発表料（参加費に加え，口頭発表者は以下の料金を支払う）

(a)1,000 円／1 回（会員）

(b)2,000 円／1 回（非会員）

今回，**「研究会参加年間パス」の会費納入**のご案内をいたします．会計年頭のみの受付になりますので，ご注意下さい．2022 年の納入締め切りは 04 月 30 日（土）です．クレジットカード支払い，郵便局からの払込み，または，同封のコンビニエンスストア払込票により送金下さいますようお願いいたします．

新入会員（2021 年 08 月 12 日～2021 年 09 月 14 日）

入会申込者 28 名（正会員：17 名，准会員：２名，学生会員：８名，維持会員：１機関）

正会員（17 名）

跡見友章(杏林大学)
楠本泰士(福島県立医科大学)
山本美奈子(山形大学)
朝野美穂(京都大学医学部附属病院)
LinJingjing(豊橋技術科学大学)
高橋あすみ(北星学園大学)
牧野眞貴(近畿大学)
村山達哉(田園調布学園中等部・高等部)
馬場達也(福岡リハ整形外科クリニック)
山野大星(日本工学院八王子専門学校)
西内舞(国立教育政策研究所)
平井新一郎(高槻市教育委員会)
ArshavskaiaEkaterina(静岡県立大学)
山村豊(帝京大学)
デイヴィス恵美(大阪成蹊大学)
毛利靖(つくば市立みどりの学園義務教育学校)
小林義光(岐阜工業高等専門学校)

准会員（２名）

松野秀治(津市立明小学校)
岩本穣志(立命館大学)

学生会員（８名）

石村青陽(広島大学)
竹内栞汰(東西大学)
下司裕樹(九州大学)
王曄雯(九州大学)
田中遼(東京学芸大学)
鎌田貴大(関西大学大学院)
酒井雅代(東京大学)
保田真理(東北大学大学院)

維持会員（１機関）

株式会社 Libry

以上

新入会員（2021 年 09 月 15 日～2021 年 10 月 08 日）

入会申込者 17 名（正会員：10 名，准会員：１名，学生会員：６名）

正会員（10 名）

大墨礼子(関東学院大学)
久保田崇(大島商船高等専門学校)
稲坂晃義(千葉工業大学)
奥山慶洋(白鴎大学)
田仲里江(札幌市立大学)
安冨直樹(横浜市立上白根中学校)
藤井太平(草津総合病院)
小倉光明(信州大学)
高澤陽二郎(新潟大学)
堤崇士(グロービス経営大学院)

准会員（１名）

川﨑加奈子(長崎外国語大学)

学生会員（６名）

小野晃裕(熊本大学大学院)
鈴木理奈(三重大学院)
神生凌我(信州大学)
熊谷理人(東京大学)
盧瑞(神戸学院大学)
李善珠(つくば大学大学院)

以上

◎学会日誌

２０２１年１２月～２０２２年０３月

・ ２０２１年１２月０４日（土）研究会「高等教育の質保証／一般」（オンライン開催）

・ ２０２２年０３月１９日（土）～２０日（日）＜全国大会＞２０２２年春季全国大会（オンライン開催）

◎国際会議の案内

２０２１年１１月～１２月

・ICCE 2021
https://icce2021.apsce.net/
(2021, 11/22 – 26, Online)

・IEEE TALE 2021
http://tale2021.org/
(2021, 12/05 – 08, Hybrid)

お問い合わせ先

学会についてのお問い合わせは，
下記のWebフォームから
お願いいたします．

https://www.jset.gr.jp/contact/

広報委員会

担当副会長　：室田 真男（東京工業大学）
広報委員長　：高橋 純（東京学芸大学）
広報副委員長：光原 弘幸（徳島大学）
幹事：深見 俊崇（島根大学）
幹事：脇本 健弘（横浜国立大学）
委員：佐藤 和紀（信州大学）
島田 希（大阪市立大学）
中村 恵（幾央大学）
登本 洋子（東京学芸大学）

E-mail：kouhou@jset.gr.jp

発行所●
一般社団法人日本教育工学会事務局
〒107-0052
東京都港区赤坂1-9-13
三会堂ビル8階
TEL 03-5549-2263
FAX 03-5575-5366
E-mail：office@jset.gr.jp
https://www.jset.gr.jp
郵便振替00160-4-452130

日本教育工学会ニューズレター
No. 251
2021 年 11 月 24 日

発行人●会長 堀田 龍也（東北大学）